

サービス業

業況、売上、採算

今期（2020.10～12）の業況判断DIは▲33.3で、前年同期(2019.10～12)と比べ45.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

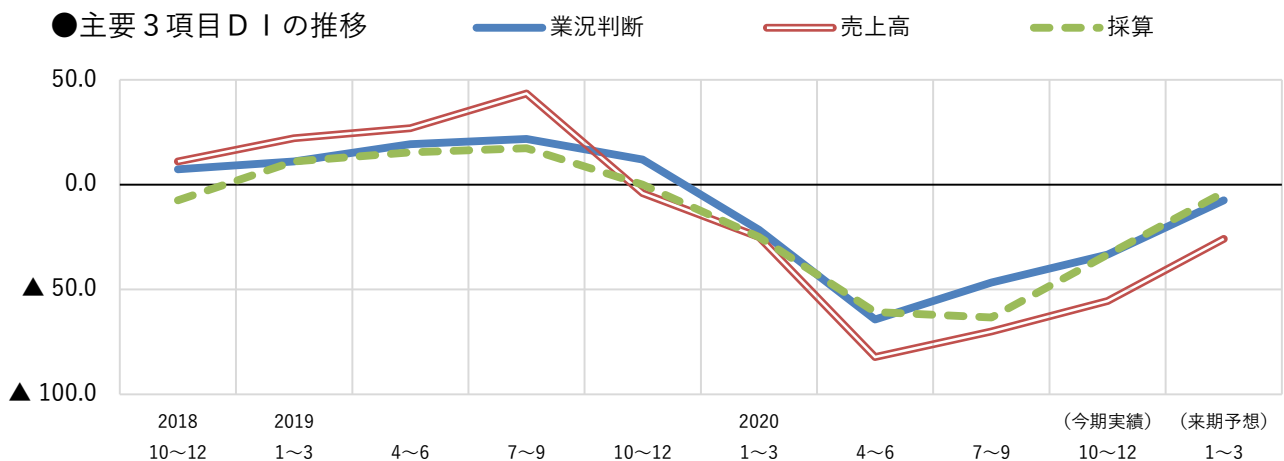
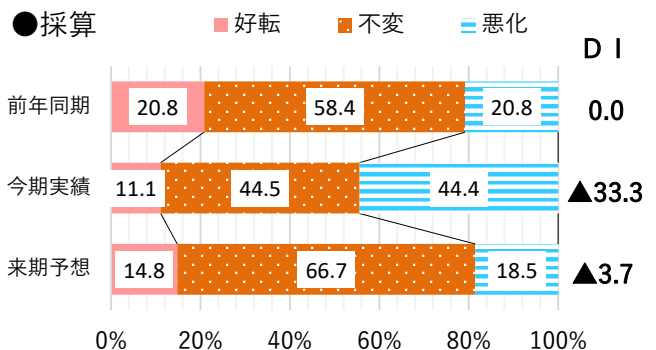
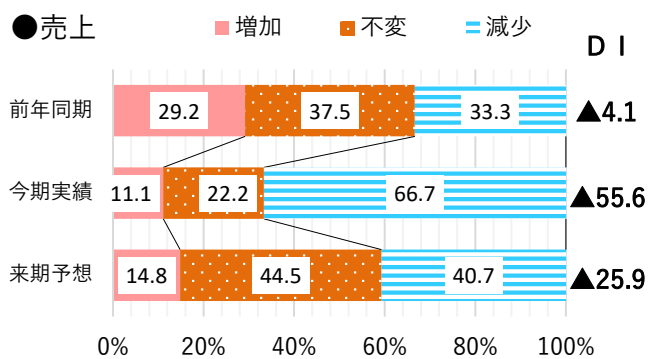
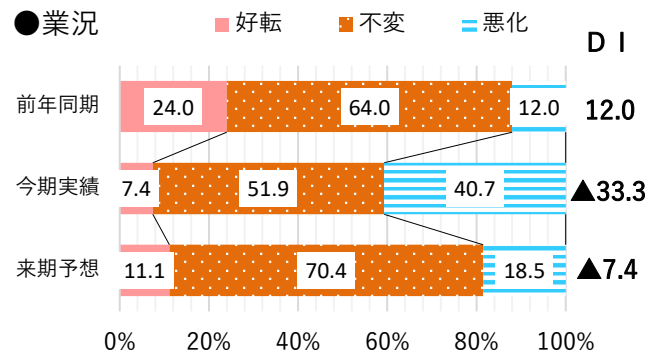
来期（2021.1～3）は、業況の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の売上高DIは▲55.6で、前年同期と比べ51.5ポイント低下し、大幅に減少しました。

来期は、売上の悪化傾向が弱まると予想しています。

今期の採算DIは▲33.3で、前年同期と比べ33.3ポイント低下し、大幅に悪化しました。

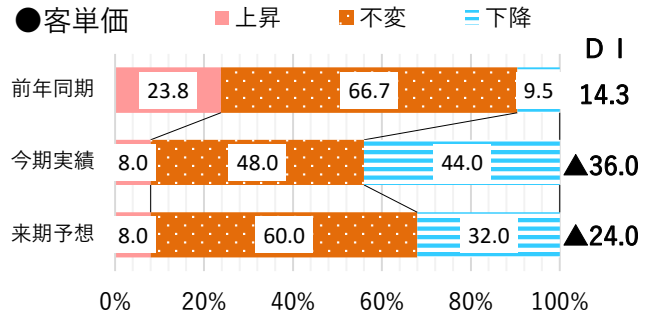
来期は、採算の悪化傾向が弱まると予想しています。



客単価、利用客数、仕入単価

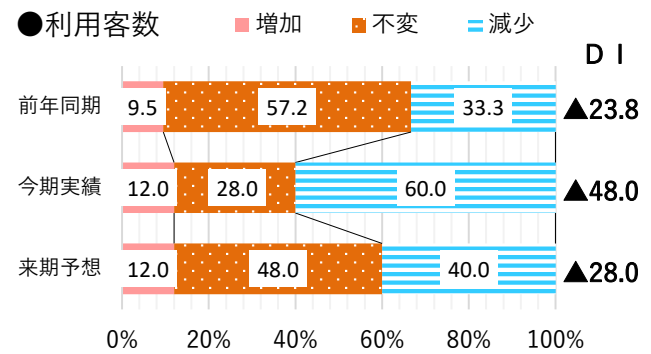
今期の客単価DIは▲36.0で、前年同期と比べ50.3ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。

来期は、客単価の下降傾向が弱まると予想しています。



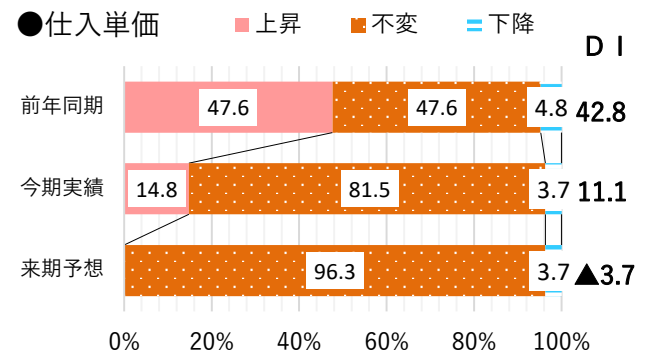
今期の利用客数DIは▲48.0で、前年同期と比べ24.2ポイント低下しました。

来期は、利用客数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の仕入単価DIは11.1で、前年同期と比べ31.7ポイント低下し、大幅に下降しました。

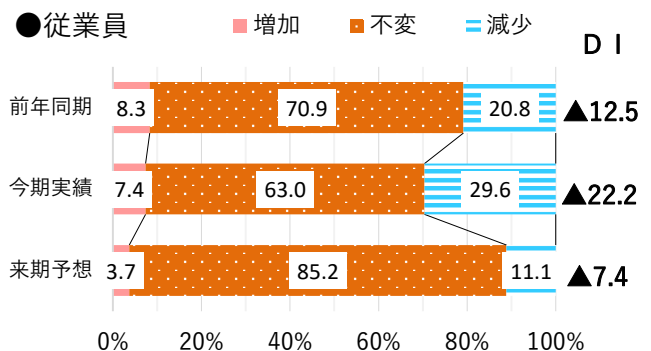
来期は、仕入単価が下降に転じると予想しています。



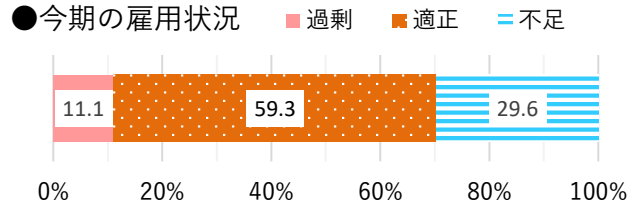
従業員、今期の雇用状況

今期の従業員数DIは▲22.2で、前年同期と比べ9.7ポイント低下しました。

来期は、従業員数の減少傾向が弱まると予想しています。



今期の雇用状況について、自社の従業員数が過剰であると回答した企業の割合は11.1%、適正であると回答した企業の割合は59.3%、不足していると回答した企業の割合は29.6%でした。



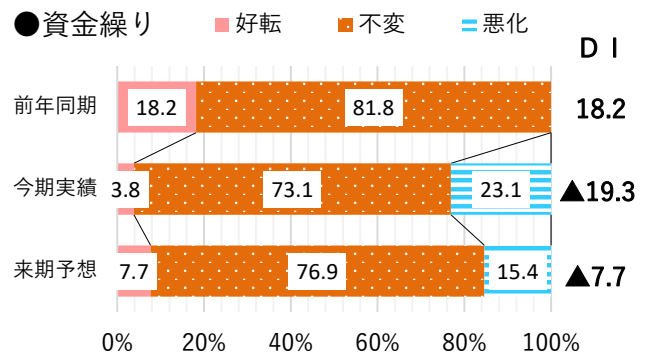
従業員数と雇用状況の相関関係について、最も多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、充足している」という回答で、サービス業全体の40.7%を占めています。

今期従業員数	今期の雇用状況	回答数
増加した	過剰	0
	適正	2
	不足	0
不変だった	過剰	2
	適正	11
	不足	4
減少した	過剰	1
	適正	3
	不足	4

次いで多かったのは「従業員数は前年同期比で変わらず、不足している」、「従業員数は前年同期比で減少し、不足している」（同位）という回答でした。

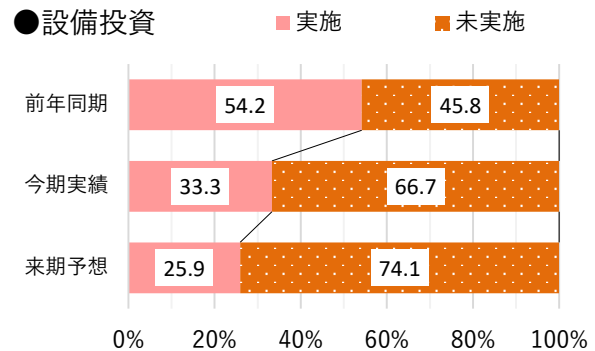
資金繰り、設備投資

今期の資金繰りDIは▲19.3で、前年同期と比べ37.5ポイント低下し、大幅なマイナスに転じました。



来期は、資金繰りの悪化傾向が弱まると予想しています。

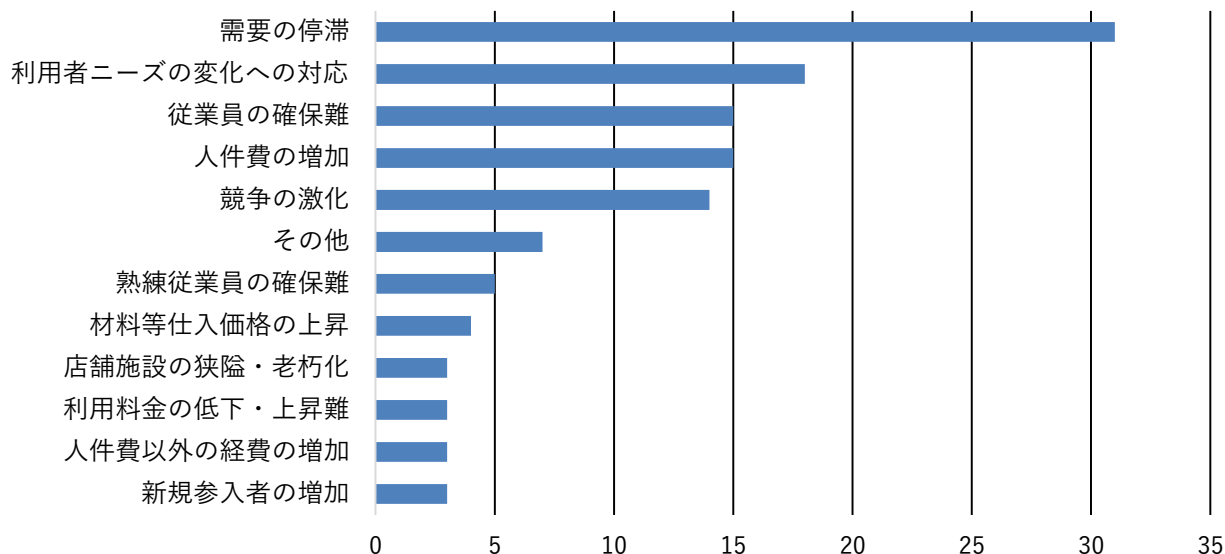
設備投資を実施した企業の割合は33.3%で、前年同期と比べ20.9%減少しました。投資内容は、1位が「車両運搬具」、2位が「建物」の順です。



来期に設備投資を計画している企業の割合は25.9%で、減少を予想しています。

経営上の問題点

今期直面している経営上の問題点は、1位が「需要の停滞」、2位が「利用者ニーズの変化への対応」、3位が「従業員の確保難」、「人件費の増加」（同位）の順です。



企業の声

[今期の業況について]

- 新型コロナウイルス第3波によってG o T oキャンペーンが停止されたことで、売上が減少した。春の第2波以上の影響を受けており、ここまで深刻な状況になると想像できなかった。（飲食店）
- 前半はプレミアム付商品券やG o T oキャンペーンの効果で好調だったが、後半は新型コロナウイルスの感染拡大により不調となったため、平均すると例年並みの業況だった。（飲食店）
- G o T oキャンペーンにより、10月の業況はやや好転した。11月以降はテイクアウトによる少額の売上のみで、店内での飲食は全くない。（飲食店）
- 10月は好転の兆しが見えたが、11月は売上が大幅に減少した。（飲食店）
- 修学旅行と国内客の宿泊を除き、取引はほぼ皆無である。（旅行代理店）
- 売上は昨年同期比で増加した。従業員数と賃金は不変だった。新型コロナウイルスの影響で、来店のサイクルが不規則になっており、客数の多い日と少ない日の差が激しかった。（美容業）
- 8月以降は回復傾向にあったが、コロナ禍により来場者が大幅に減少し、今期全体では減収増益だった。（スポーツ施設）
- 10～11月の客数は、前年同期比で60%減少した。（写真業）
- 新型コロナウイルスにより、業況が大きく悪化した。（出版業）
- 利用客が減少した。（不動産代理・仲介業）
- コロナ禍の為、顧客との面談数が減少している。（保険業）
- 学生を中心に利用客数が増加した。コロナ禍のため、一部サービスを停止した。（教養・技能教授業）

[来期の業況について]

- 冬が終わらなければ、新型コロナウイルスの感染者は減らないのではないかと。早急なワクチンの供給に期待する。（飲食店）
- 新型コロナウイルスの影響で、地元客、市外客問わず増加を期待できない。（飲食店）
- 新型コロナウイルスへの対策はある程度把握できたので、来場者の増加を図りたい。（スポーツ施設）
- 新型コロナウイルスが終息すれば、業況が上向くだろう。（出版業）
- 今期同様に、客数の減少が続くと思われる。（写真業）

- 今期同様の状況になると思う。新型コロナウイルスの流行が終息し、企業の社員旅行や海外旅行が少しでも戻ることに期待したい。（旅行代理店）
- 12月が繁忙期だったため、1月以降は売上が伸び悩むと思われる。また、成人式の延期によって売上が減少する。卒業式関連の予約が入っているので、3月は例年通りを見込む。（美容業）
- 今期と同様の傾向が続くと思われる。（保険業）
- 繁忙期に入るため、売上や利用客数の増加傾向が続く見込みである。（教養・技能教授業）